

2010年ロシア人口センサスにおけるモラルハザード

著者	山口 秋義
雑誌名	九州国際大学経営経済論集
巻	20
号	1
ページ	77-88
発行年	2014-01
URL	http://id.nii.ac.jp/1265/00000457/

2010年ロシア人口センサスにおけるモラルハザード*

山 口 秋 義

要 旨

2010年国勢調査における愛知県東浦町人口水増し事件以降、政府統計におけるモラルハザードが統計の真実性に影響を与える要因として注目され、統計調査論の新たな課題となりつつある。本稿はロシア連邦国家統計局（ロススタート）と報道機関の資料とに依拠し、2010年ロシア人口センサスの実査においてモラルハザードに起因するどのような歪曲があったかをモスクワ市北トゥシノ地区における偽造調査票混入事件を中心に検討するものである。政府統計におけるモラルハザードの理論的一般化に向け、このような事例研究を積み上げることが必要であると思われる。

キーワード

人口センサス、調査環境、統計調査、ロシア、統計制度

* 本稿は2013年3月3日（日）に行われた日本統計学会春季集会2013（学習院大学）分科会「政府統計におけるモラルハザード」（オーガナイザ：濱砂敬郎、座長：伊藤陽一）における報告「2010年ロシア人口センサスにおけるモラルハザードー実査と集計の諸段階における歪曲ー」を基にした。

はじめに

プライバシー意識の高まりを背景として統計調査への拒否や非協力が広がる統計調査環境の悪化は統計の真実性に影響を与える要因の一つであり、各国において進展しつつある人口センサスの代替方法への転換の誘因ともなっている。これとは別に近年わが国と各国における事例にみられる政府統計におけるモラルハザードもまた統計の真実性へ影響を与える要因として注目されつつあるⁱ。

本稿の課題はロシア連邦国家統計局（ロススタート）と報道機関の資料とに依拠し、2010年ロシア人口センサスの実査においてモラルハザードに起因するどのような歪曲があったかをモスクワ市北トゥシノ地区における偽造調査票混入事件を中心に検討することである。

第1節 2010年人口センサスの経緯

2010年ロシア人口センサスの経緯と集計結果の概要とを見ておく。調査は10月14日午前0時における定住人口について実施され、実査期間は一部の僻地及び極地を除き10月14日から25日までに行われた。これまでの人口センサスと同様に今回も他計方式が採用された。調査の計画段階において自計方式、郵送回収、及びインターネット利用調査の導入が検討されたものの採用されなかった。調査員が直接世帯を訪問するほか、被調査者が常設センサス出張所とよばれる調査会場において調査に応じることもできた。この方式は2002年センサスにおいて初めて採用されたものであり、今回は全国で約800万人、全人口の約6%が利用し、特にモスクワ市において人口の約20%が常設センサス出張所に

i 日本におけるこの問題に関する次の研究がある。瀧砂敬郎「愛知県東浦町の平成22年国勢調査問題にかんする覚え書き」『経済学研究』、九州大学経済学会、第80巻第1号、2013年6月。

おける調査に応じている。自宅に不在など様々な理由から調査から漏れた人々の情報は、住宅居住者名簿などの行政記録から性別と生年月日だけが調査票へ転記されることで調査に替えられた。

2012年12月に全国集計が完了し2013年に全11巻にわたり結果が公表される。集計結果ⁱⁱによると全国の人口は1億4,285万6,536人であり2002年センサスから約226万1,500人減少した。この結果ロシアの人口数は世界第7位から第8位へ順位を下げた。人口の自然増減と社会増減との内訳によれば人口の自然減少が深刻である。人口減少の約226万1,500人は自然減少473万4,300人より国外からの移民増加数247万2,800人を引いたものであるⁱⁱⁱ。

全国の総人口数が大きく減少した一方で人口が大幅に増加した地域がある。2002年センサス時における人口数を100とした指数は表1のように、モスクワ市が110.9となっているほか、ダゲスタン、チェチエン、カラチャエボ・チェルカスクなどのカフカス地方における人口増加が著しい。カフカスにおける人口増の背景のひとつに地方行政機関による人口水増しを指摘する見解がある^{iv}。

表1 大幅に人口が増加した地域

	モスクワ市	ダゲスタン共和国	チェチエン共和国	カラチャエボ・チェルカスク共和国
対2002年比	110.9%	115.6%	115.0%	108.9%

出所：О предварительных итогах Всероссийской переписи населения 2010 года.
«Вопросы статистики» 2011 №6, стр.4.

ii Федеральная Служба Государственной Статистики. Всероссийская перепись населения 2010. Т.1. Численность и размещение населения. М., 2012.

iii О предварительных итогах Всероссийской переписи населения 2010 года. «Вопросы статистики» 2011 №6, стр.2.

iv Александра Комкина. Во время прошедшей в России переписи считали мёртвые души. «Новые известия»27.10.2010.

<http://demoscope.ru/weekly/2010/0441/perep01.php>

(アクセス日2013年2月20日)

第2節 捕捉率の低下

2010年人口センサスにおいても調査漏れの大きいことが問題となっている。ロススタート長官のスリノフによれば調査漏れは全国で約360万人に上り前回2002年センサスの約2.5倍に増えた^v。調査漏れの規模に関する各種世論調査の結果は表2に示したとおりである。

表2 各種世論調査にみる2010年人口センサスの調査漏れ

	ロススタートの委託調査	全露世論調査センター	レヴァダセンター
調査されなかった	14.26%	11%	13%

出所：Опрос об отношении населения РФ к предварительным итогам Всероссийской переписи населения-2010 и достоверности ее итогов (май-июнь 2011) <http://www.perepis-2010.ru/popuiar-cry/> Левада-центр. Итоги переписи населения 2010. (01.11.2010) <http://www.levada.ru/press/2010110101/html> ВЦИОМ. Пресс-выпуск 1621. (08.11.2010) <http://www.wciom.ru/index.php?id=459&uid=13982>

全露世論調査センターがセンサス直後の2010年11月8日に行った調査^{vi}によれば、11%が調査を受けていないと回答している。またレヴァダセンターが2010年11月1日に実施した調査^{vii}では、13%が調査されなかったと回答している。ロススタートが民間調査期間に委託して実施した調査^{viii}によれば、調査さ

v «Vesti.ru» (16.12.2011)
<http://www.perepis-2010.ru/news/details.php?ID=6932&sphrase-id=101716>
(アクセス日2013年2月20日)

vi ВЦИОМ. Пресс-выпуск №1621. (08.11.2010)
<http://www.wciom.ru/index.php?id=459&uid=13982>
(アクセス日2013年2月20日)

vii Левада-центр. Итоги переписи населения 2010. (01.11.2010)
<http://www.levada.ru/press/2010110101/html>
(アクセス日2013年2月20日)

viii Опрос об отношении населения РФ к предварительным итогам Всероссийской переписи населения-2010 и достоверности ее итогов (май-июнь 2011)
<http://www.perepis-2010.ru/popular-cry/>
(アクセス日2013年2月20日)

れなかったと回答した人はさらに多い14.26%に上った。また大都市における調査漏れはさらに大きく、上述のレヴァダセンターによる調査によればモスクワ市では24%の人々が調査を受けていないと回答している。

ロススタートが民間調査機関に委託して実施した調査によれば表3のように、調査を受けなかった人々のうち「調査を拒否した」との回答が35.6%であった一方で、「調査員が来なかった」との回答が42.65%に上る。また自宅に「不在であった」との回答が22.19%であった。

表3 調査漏れの理由

調査されなかった14.26%のうち	
調査拒否	35.16%
調査員が来なかった	42.65%
不在であった	22.19%

出所：Опрос об отношении населения РФ к предварительным итогам Всероссийской переписи населения-2010 и достоверности ее итогов (май-июнь 2011) <http://www.perepis-2010.ru/popular-cry/>

このように調査員が来なかったために調査から漏れたというものが多く、意識的に調査を拒否したものは多くない。ロススタート長官のスリノフは『政府新聞』とのインタビューにおいて「拒否したのは102万2千人」^{ix}と答えており、これは全人口の1%未満である。このようにロシアにおける人口センサスの捕捉率の低さは、プライバシー意識の高まりを背景とした拒否や非協力のひろがりという調査環境の悪化だけによって説明することはできない。多くの人が「調査員が来なかった」と回答した事情を調査する側のモラルハザードという新たな視点から検討することが必要である。統計の真実性を規定する一要因としての調査する側のモラルハザードという問題は、愛知県知多郡東浦町にお

ix «Парламентская газета»10.12.2010.
<http://demoscope.ru/weekly/2010/0447/perep01.php>
 (アクセス日2013年2月20日)

ける2010年国勢調査人口水増し事件のようにロシア以外にもみられる現象であり、これが調査環境の悪化と同様に進化する傾向性があるかどうかを判断することはなお困難である。この問題の理論的一般化を目指した各国の事例研究を積み上げることが必要である。2010年ロシア人口センサスにおいてモラルハザードに起因するどのような問題があったかをみていく。

第3節 被調査者と調査員による歪曲

ロシアの人口センサスにおいて使用される調査票は2002年から無記名となった。このことが奇妙な回答が増える要因となった。2010年センサスにおいて特に民族属性に関する回答にこのことが目立っている。2011年12月16日に『ロシア新聞』とのインタビューに答えてスリノフ長官は概ね次のように述べている^x。すなわち、モスクワ市内において民族属性を映画スターウォーズに登場する「ジェダイ」と答えた人が46人、スカンジナビアの伝説上の妖精「エルフ」が32人、森の小人を意味する「グノム」が1人、「サムライ」が1人であった。また全国では「左官」と答えた人が1人、「アフロロシア人」が13人、「コスモポリタン」が106人、「シベリア人」が4,166人であった。尚、2002年センサスにおいて「コスモポリタン」と答えた人は50人であり、また「シベリア人」は8人であった。これらの奇妙な回答は集計においてすべて「その他の民族」に分類された。スリノフ長官は同インタビューの中で、民族属性の回答を拒否した人が200万人いたこと明らかにしている。さらに調査から漏れた約360万人については性別と生年月日だけが住宅居住者名簿などの行政記録から転記されたことにも言及している。結局これらを合わせた560万人分の民族属性に関する情報が欠落したこととなった。

x 「Российская газета」19.12.2011.
<http://demosscope.ru/weekly/2010/0491/perep01.php>
(アクセス日2013年2月20日)

調査員による架空調査票のねつ造について、センサス直後の2010年12月10日の『国会新聞』とのインタビューにおいてスリノフ長官は「ずるい学生は最初から行政資料を調査票へ転記し、自分では世帯訪問をしなかった」^{xi}と述べている。2010年センサスにおける具体的な言及はロススタートサイドからはなされていないようである。しかし前回2002年センサスにおける調査員による不正については数多くの証言がロススタート機関誌の『統計の諸問題』に掲載されている。2002年11月2日にロシア科学アカデミー主催で行われた会合における調査員等による発言をみておく^{xii}。調査員を担当したある学生は「1人の調査員が1日平均50-60人にインタビューすることがノルマだったので、このノルマをこなせない場合は調査員による作り話を勝手に調査票へ記入することが横行した」と述べている。この点に関してある大学教員は自らの調査員としての経験から次のように述べている。「私の調査区では30-80%しか調査できなかった。国家統計局から与えられた作業ノルマは通常の方法では無理なものであった。したがって実際には調査をせずほかの方法に頼ることになった。その方法は住宅居住者名簿などから書き写すことである」と。2010年センサスにおいても調査員による同様の歪曲があったと推察される。

第4節 行政機関による歪曲

2002年人口センサスに行政機関が介入し集計結果が歪曲されたという指摘があった^{xiii}。これらはロススタートによって公式に確認されることはなかったが、2010年センサスにおいて地方行政機関によるデータの意図的改ざんがロス

xi «Парламентская газета»10.12.2010.
<http://demoscope.ru/weekly/2010/0441/perep01.php>
(アクセス日2013年2月20日)

xii Г.Р. Калимуллин. Семинар о переписи населения в ГУ-ВШЭ. «Вопросы Статистики», 2003, №2, с.62-66.

xiii Там же, с.65.

スタートによって摘発された。これはモスクワ市北トゥシノ地区において偽造調査票が多数混入された事件である。この事件の経緯と背景とをみていく。調査が終了した10月25日の直後から調査員がブログにおいて調査票偽造について告発をはじめた。これらはシェークスピアやサルティコフシェドリノといったペンネームによるものであり、そのため信憑性に疑念の残るものであった。例えば10月31日に示された告発には次のように記載されている。「金曜日（10月22日）から調査員の間で調査区に持ち込まれた『ブラックボックス』のうわさが広まり始めた。・（中略）・この箱の中には北トゥシノの住民の調査票が入っていた。そこに書かれていた内容は、彼らの大部分がロシア人で高等教育を受け（中には博士号取得者がいた）、1つまたはいくつかの外国語を修得しており、仕事を持っていて2－3人の子供がいるというものだ。特に面白いのは、6－10人の大家族が2－3部屋に住んでいるということだ。」^{xiv}このような告発を受けて報道機関がこの問題を取り上げ始める。2010年10月27日付け『ノーヴィエ・イズヴェestia』紙には「センサス最終日の25日、首都のある地区役所の職員たちが各調査員に架空の調査票を300枚ずつ渡した。これら300人ずつの『死せる魂』について思いつくまま記入するように強要した。・（中略）・ある人は5か国語を話すとか、1ルームに10人住んでいるとか書いた」^{xv}と書かれている。この記事の内容は概ね先のブログの内容と一致している。ブログでの調査員による告発とマスコミ報道とを受けてロススタートが調査に乗り出す。スリノフ長官は10月29日付け『ヴレーミャ・ノーヴォステイ』紙とのインタビューにおいて行政機関による意図的水増しについて認めている。彼は「調査員はあちこちであらかじめ決められたリストに基づいて調査票に記入することを強要された。このような深刻な違反は公式に次の地域で確

xiv Блог «Итоги переписи 2010». <http://demoscope.ru/weekly/2010/0443/perep01.php>

(アクセス日2013年2月20日)

xv «Новые известия»27.10.2010. <http://demoscope.ru/weekly/2010/0441/perep01.php>

(アクセス日2013年2月20日)

認された。それは、北トゥシノ区、東イズマイロフ区、ソコル区である。人口の水増しを行ったのは首都の行政機関だけではない^{xvi}と述べている。このうち北トゥシノ地区における人口水増しについてロススタートが調査し事実を確認したことをスリノフは11月8日付け『ロシア新聞』とのインタビューにおいて次のように述べている^{xvii}。記者が「センサスの初めのころから首都では次のようなうわさが広まりました。各調査区に調査員がそれぞれ何人調査しなければならないと書かれた文書が渡されたというものです。このことからすべての地区に対して人口数を引き上げるようにという指示が出されたというものです」と尋ねる。スリノフ長官はこれに対し「このことは私たちも知っていますし一部の情報は調べました。2件については確認できませんでしたが4件は確認できました。現在ではさらに2件について調査しています。ロシア国家统计局はセンサス期間中にすべてのモスクワの調査責任者へ手紙を出し、われわれの情報では地区行政機関が人口センサスに介入する可能性があると伝えました。調査区事務所に架空の記入済み調査票が送られてきました。これを誰が何の目的で行ったかは想像するしかありません。しかし私たちの情報ではこれらは個々の地区行政機関から送られてきたものです。このことを曖昧に済ませるわけにはいきません。私たちは調査区責任者にたいして二重調査票が混入されるかもしれないことをあらかじめ伝えていました。・(中略)・違反はモスクワに止まらないことも言うておきたいと思います」と答えている。

このように行政機関が主導した偽造調査票混入事件をロススタート長官が認めている。さらにこのような事件が他の地域においても起きたこともロススタート責任者として指摘しており注目される。また2011年3月28日付け『ロシア新聞』とのインタビューでスリノフは、ロススタートが調査した結果違反を

xvi «Время новостей»29.10.2010. <http://demoscope.ru/weekly/2010/0441/perep01.php>

(アクセス日2013年2月20日)

xvii «Российская газета»08.11.2010. <http://demoscope.ru/weekly/2010/0441/perep01.php>

(アクセス日2013年2月20日)

摘発したことを次のように述べた^{xviii}。記者が「世間では多くの人が公表された数字を疑っています。調査員の学生たちが調査票の数字を水増しさせられたと多くの人が言っています。センサスはどの程度信用できますか」と尋ねたのに対し、スリノフ長官は「水増しを強いられた学生に関する事件をわれわれはモスクワで確認しました。それは北トゥシノ区の調査区のことです。私たちは点検し違反情報を排除しました」と述べている。ここでスリノフが指摘したモスクワ市の北トゥシノ地区における人口水増し事件はどのような経緯をたどったかを2010年11月11日付け『ポリト・ル』紙の報道にしたがってみておく^{xix}。この記事は北トゥシノ地区役所のホームページにも掲載されている。この記事の内容は概ね次のとおりである。

10月21日に調査区長が地区役所に10月20日までに調査できなかった世帯リストを送った。このような世帯は3つの調査区で130超だった。10月25日、調査区へ地区役所から段ボール箱が送られてきた。この中にはすでに記入済み調査票が入っていた。送られてきた票を基に調査員たちは調査できなかった世帯について記入しなければならなかった。しかしある調査員が同じ住所について記入された2つの調査票を発見した。一つは地区役所から送られたものでもう一つは住人から自らが聞き取ったものであった。両者の内容は大きく違ったものでこのような重複がいくつかあった。調査員は住宅居住者名簿が古く前の住人が票に記入されていたのだと判断しこのことを責任者へ伝えた。責任者の反応は予想外であった。彼は地区役所から送られてきた票をつかうよう強要したのだ。この表に書かれていたことは全く正しくなかった。こんな具合で、ワンルームに住む一人暮らしの老人の代わりに、8人の高等教育を受け数か国語を話す男女が住むという

xviii «Российская газета»28.03.2011. <http://www.rg.ru/2011/03/28/surinov-site.html>

(アクセス日2013年2月20日)

xix «Полит.ру»11.11.2010. <http://demoscope.ru/weekly/2010/0443/perep01.php>
(アクセス日2013年2月20日)

ことに書き換えられた。調査員はこのことを大学の教師に伝えた。10月25日夕方、ロシア国家統計局から調査員へ電話があり偽造調査票について問い合わせがあった。電話の1時間後北トゥシノ区の調査区事務所へ統計局職員が訪れ、この偽造調査票を携えて当該アパートを訪問し点検を行った。地区役所から送られてきた票の内容は現実とは違っていた。

北トゥシノ地区における人口水増しがどの程度の規模で行われたかを数量的に伝える資料を筆者は入手していない。しかしこのような水増しがこの地域に止まらないとの見解をスリノフ長官は述べている。2011年12月19日『ロシア新聞』とのインタビューにおいて「モスクワだけにとどまらずカラチャエボチェルカスク共和国においても同様の事件を摘発した」^{xx}と述べている。北カフカスにおける人口水増しが100万人を超える可能性があるという次のような指摘がある。「北カフカス地方では2002年センサスと同様に重複調査された人が少なくないと思われる。この地方には連邦予算から失業手当など多額の補助金が支払われている。補助金額は人口数に応じて決められる。私の試算ではカフカス全体で100万人を超える『死せる魂』が調査された。また100万都市の地位を失うことをおそれる他の都市でも同じことが懸念される。」^{xxi}100万都市としてはロストフ・ナ・ドヌーやチェリャビンスクがあげられる。彼が指摘するように人口水増しが広がりを持つのであれば北トゥシノ地区での偽装調査票混入事件は冰山の一角といえよう。

xx 「Российская газета」19.12.2011. <http://demoscope.ru/weekly/2010/0491/perep01.php>

(アクセス日2013年2月20日)

xxi 国立高等経済院大学人口研究所上級研究員ニキータ・ムクルトチャンの指摘による。
«Новые известия»27.10.2010. <http://demoscope.ru/weekly/2010/0441/perep01.php>

(アクセス日2013年2月20日)

結び

行政機関が主導した人口水増しにみられるような政府統計における個々のモラルハザードは、それぞれ累積されて結果数値の正確性に対して大きな影響を与える。モラルハザードを含めた調査誤差が累積し全体としてどの程度の乖離を現実との間に生むかを数量的に把握することは困難である。しかしこの点に関連する興味深い資料としてCIAの推計値がある^{xxii}。2011年7月にCIAが推計したロシアの総人口は1億3,873万9,892人であり、ロススタートの公式発表よりも約420万人少ない。また2010年1年間の人口減少率は0.47%でロススタートの数値の15倍となっている。1年後の2012年7月の推計値は1億4,251万7,670人と変更されておりロススタートの公式発表とほぼ同じとなっている。CIAがどのような方法でこれらの数値を推計したか、また1年後に推計値をなぜ大きく修正したかは不明である。

さて、モスクワ市北トゥシノ地区偽造調査票混入事件だけでなくカフカス他の地方において行政機関が主導した人口水増しなど政府統計におけるモラルハザードが大きな広がりをもつ可能性が指摘される。統計調査環境の悪化はプライバシー意識の高まりを背景としており市民社会の成熟に伴う傾向的性格をもっていると思われる。調査に関わる者のモラルハザードも同様に深化する傾向があるかどうかはなお慎重な検討が必要であろう。

統計の真実性に影響を与える要因としての政府統計におけるモラルハザードの理論的一般化に向け個々の事例研究を積み上げることが必要である。

xxii CIA World Factbook

<https://www.cia.gov/library/publications/the-world-factbook/geos/rs.html>

(2011年7月推計値のアクセス日2011年10月19日)

(2012年7月推計値のアクセス日2013年2月20日)